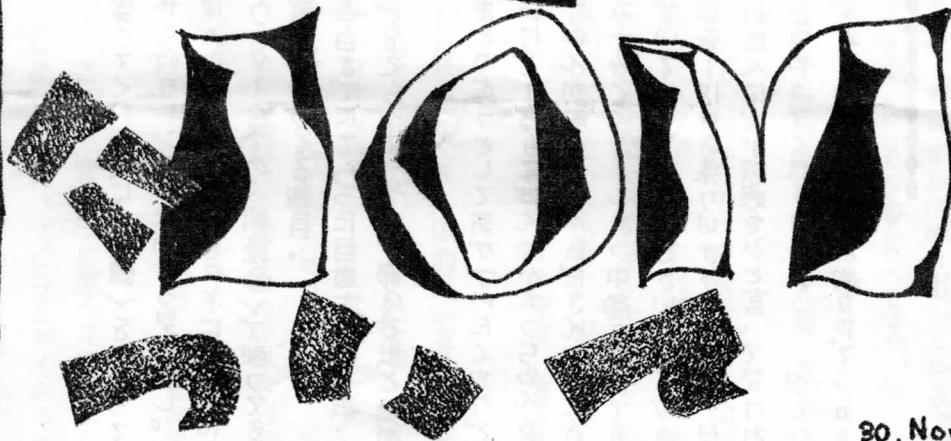


イオム通信-特別号

感想集

詩集



90. Nov. 83

発行・大阪市阿倍野区旭町2-12-2 WRI-JAPAN 出版部

前口上

▼「それや、詩集買ってくれた人へ付録をつくって、送る。おかげで、どうやら収支トントンにいはる見ゆし。それから来月18日るり子はらんらがやる入詩集をタネに「パイやる会」つや、20日エンカウンターSでの入朗読会して配つてもエエ」といのが、この感懐集をつくる趣旨。

▼で、とりあえず今日までにもらった百数十通の手紙、ハガキのうち、約1/3ほどをえらんで、その一部の抄出と無断掲載、どうもすません。

▼ところで、これまじめやうとして気がついたんやけど、詩集はよう売つてくれたけどーるり子はんおかまうちやんぬるおくんはらんあゆみらんかありらんただせんひろ子せんぶじたせんのぞみくんみすみくん……しよっ中顔を合せてるめんながらはへ例外をのぞいて、さっはり感懐きいてへんなあ。というところでこゝで公告！18日の集りはきつとキマヤ。それで当日、ぼくに指名された人は必ず感懐をひと言、でなければそれに代るナンカをひとつもつてくれるカナ……但し、「オ×デト」なんてそらざらしいのは、絶対お断りや。 11月22日



1



① ウリ事務所や旭町界隈のにおい、登場する人たちの表情や声まで伝ってくるようです。「張り込み」「日録」など、きわめて深刻な内容であるはずなのに、思わず私は吹き出してしまったほどです。ユーモアが生活にも運動にも必要な入りますね。そしてあもしろく読み進むうちに、人と世の中の、ある種のこわさに気付かせてくれる。そんな作品集と思います。(大阪 木下達雄)

② …腹を抱えて笑いころげ、伝わってくる叙情に、人間存在の哀しみというべきか、孤独というべきか、それだからこそ南う…諦念というべきか、深い感懐と共感を覚えました。そして詩集もこのころながら、描かれている日常闘争の質に、深く敬服します。(東京 東谷岩人)

③ 貴著から小生は、当節珍重すべき人間の美い生存感を感じたばかりです。ユーモアなんてのんびりしたものは、ちと異なるけれど小生は心ゆくまで、リクツのブレーキを外して快よい笑いを笑うことができたのでした。…体が軽くなった感じで、笑い終つて周囲を見まわすと、小生の袍籠にも貪しいみなれた日常が、ムカイ的イオム的に映つてくるようなのです。

（神戸 伊勢田史郎）

④ とても面白い詩集で、この止めようと思つても止められなく、一気に読ませられてしまいました。…ピラをかくように詩をかきたいーあとがきの小詩論でかかれていることは、私からみれば

ば八分かに成功しているようにみえます。實際はかなり隔絶したところがかかれるのでしようけれど、読む側には、そこに無理やずれが感じられません。…Ⅱの深夜定期便以下、特に目新しい題材、発想で、一篇ごとに生きと動いている小説の面白さがあります。このところどういうわけか私にも深夜定期便がついておりませんので、今後はあまりまじめにたえず、この手で行くこうーと大いに啓発されました。…しろい背中が一番詩らしい詩といえるかもしれません。表白女もちよつとやさつとでは書けるものではないようです。…Ⅲの部分は、一般的なことではないところに、大へん興味をそざられて読みました。また、全体を通じて、南西井のよさと、それだからこそこのユーモアをも感じました。

(高知 西園春美子)

⑤ 非常に面白かった。「これが詩なのだろうかとふと思いつつ読んでいるうち、ほのぼのとしたユーモア、ペーソスたゞよい妙味に、いい難いものがあります。終りの方の詩、ちよつと難しいのが多かったが、向井さんふうさんのかけ合い?には、思わず微笑んでしまいます。僕のおぶんも「面白い」といつて読んでましたよ。

(和歌山 貴志哲也)

⑥ どの詩もみなおもしろくニヤニヤさせられ、或は吹き出してしまつたものでした。ほくは入同行田くくが一番好きですね。…詩をつくることと、ピラをつくりまくることが本質的にひとつの行為としてとらえられるのだと判りました。 (東京 片岡判明)

⑦ コスモスでみたとき気がつかなかったが、とても面白い。詩集は尺いていの場合、気軽な読のなさを保持しているのですが、この詩集にはそういう負担がなかった。向井の詩は一見大げさなみにみえて緻密だというのが私の発見。気のつき方が悪いかも知れないけれど、行動すること、想像することの発展が向井の特質のような気がします。⑧ 二信、二度読んでこの批評するのは手ごわいなと考へ込んでしまいました。普遍に詩と思われている形への拒否か、自然の成り行きが(つ)まらぬことかもしれないが、近年一番厄介な詩集です。よんで大へく面白いのは、とてもいいと思うのだが……

(東京 清水 清)

⑨ 冒頭にへ々樹の中へを持ってきたのは、まさに、当リイッ、ですね。こうしたユーモアがうれしいです。思わず笑ってしまいました。

(埼玉 竹本信弘)

⑩ この詩集、送られてきた日の帰路に、一気に読んでしまった。公判傍聴の帰り私服に尾行されたこと。大阪駅での自行隊歓迎風景、夜中かかってくる無言電話。息を殺して向うにいる官憲。夕陽発行動員内で、ウリ事務所でワイワイとビールをつくる様子。運動や生活の日常性が、スツホンポンの言葉で語られる。「運動」は90%、こんな雑用や「と」。……この本をよんだと、僕は雑音の中で突然、後を振り向くくせががついてしまった。(F)

(大阪 社会タイムス)

2



⑩ 運動が日常の雰囲気なのに、ああこういう運動なら楽しんで仕方がないだろうなあ、と思わせるのは詩の魔力でしょうか。實際はニコニコの連続でないということが、入三又高い木の心の終行「…私の小さな文庫」や、へしろい背中などでも痛く感じるのですが…。この詩集の中で最も強烈なイメージは、へき山鳴動：戦記のビラの動くイメージ。「ぼくの分身三千人」、なんてすばらしいことなんでしょう。ビラでやえ三千人と勇氣が湧いてくる。そんな力がこの詩集にある。

(北海道 向井壺助)

⑪ 一冊の本にまとめられると、詩集というよりルポルタージュに近い。風の音、雑音、足音、軌音、声、乗物、印刷機や紙の音、電話、そればかりではない。劇、眼、風景といったものの、あやしいひそやかないきづかい。実ににぎやかな雰囲気をもつて音がとびでてくるのである。向井存、彼の周回に出没するさまでまはるター仲間であり、雑音のくぼみであり、公母であり、企業家であるーがクロスし織りなしていく生々しい日常が直截に切りこんでくるのだ。読者は向井存が直面している状況現場に、いつの間にか立会わせられているようなりアリテイを体験するに違いない。…この詩集から飛び散ってくるさまざまの音、声、ざわめきのダイナミズムは、向井存と若い仲間たちとがくりひろげてきている日常であり、そのルポルタージュで

あり、メッセージであり、その上まことに強力なマジテーション
ンでもある。そうした幾重にも交差する拍子とイメージと行動
に思想を支えられた結果としてあるのだ。…ぼくはこの詩集は
このままそっくりシナリオになるんじゃないかと今ほんきにそ
ろ思っている。面白いスライドができるのではないか、…

（ハナ肇） 東京 長谷川修史

⑬ ……このごろの多くの現代詩とくに若い詩人たちの一それ
とは全く反対の、こういう運動のなかでの生き生きとした形
象は、読んだあとも鮮明なイメージがのこります。同行四人など
くつきりと。…「反原発全国集会」を契機として書かれた運動
論とびつたり一致する詩集です。言行一致、肩に力を入れな
い、飄々としたスタイルの運動であるところが、権力の側も手
を焼く…。

（札幌 花崎景平）

⑭ 「赤い鳥」なまてエユは、たにかつてる人面ではないと出て
こない。旭町の丹波屋でたりで、一杯呑みたくなつてくるよう
な詩ばかり。

（大阪 井上俊夫）

⑮ 詩の中では、ウリというか、あの卑賤のこぼけたようなの
ごかたイメージが、すこし遠のいてみえた。一天王寺のあ
たりを知らない人がよめば、肉争のきびしさを大阪弁でやわら
げて、ななとうけとめらだろうな、こ…でも特別な人たちか、
特別な肉いをしてるのではなく、そして弾圧も日常なのだとい

うこと、なにか言い論じた気分。

(東京 高安イツ子)

⑬ 色々面白い書き方、とくに八張り必み・日録など、眼が洗われる感じでしたが、向井さんはやはり詩人だなあと思っただのは、八文庫の中々の「フリーズ」、石だたみの上で「しゆん私」はバリエーションです。この言葉のあざやかさが、この詩集を肉じるまで持続していました。向井さんは詩をかくようにピラをつくつてると、ところどころで感じました。ピラだけでなく運動もこうでなくては。…こちらの運動は、時代も前の古さを感じてしまいます。分りやすい言葉で、生きた言葉でわれわれの運動や思想を肉付けていかねばと思います。

(東京 高島正久)

8

⑭ くだけ言葉の消息文のような詩にも、日常行動が在る。この重大さが心に残ります。…Ⅲにまとめられている八表白文以下、の作品も、まぎれもない詩として読みました。…どの作品もゆつたりとして絶叫がないのは、それぞれの手法というより権力に対して、個人を相手に位置づけて、じつくり構えているからに違いありません。御本のデザインもこれ以外にはたえられないと思うほど、内容とビジュアルの出来栄をと思います。

(東京 しのだもりの)

⑮ 運動を単に記録しかきとどめるだけでなく、ひろがりがあるって、運動の果してを伝えてきます。へ夜景が一番印象的な

のは、おそろしく、ぼくの怠々な日々を共に照し出してこるから
てしよら

(岐阜 松蔭 豊)

①⑨ 市民運動にまで尾行があるとは。一詩集を通して察するか
ざりユニークで个性的ですらある運動の方法に、今度ほどいな
戦術が飛び出すが見守りたいた持にさせられます。従末の左翼
詩は、相手を倒す意気込みが結果的に剪み定に終っている場合
が多いように思いますが、この詩集は、味方の心情や自分の詩
と運動の中へ引き込む不思議な力をもっていると思えます。

(神戸 谷田寿郎)

②⑩ 権力や實力に、自然なままぶつかって行つてゐる姿がありあ
り伝わってきました。決して表に構えず、堂々と立ち上がり、言
う一しかもそこにユニークな樂しさをどう加味するか。勝つこ
このほとんどのない剛いにとつて大事なことです。教條主義的な
運動の多い中で、闘う者のチエの大切さを知らせてくれる、共
感のもてる一冊でした。

(青森 佐伯隆三)

②⑪ 詩集のピラについて、まさに現在・唯中の詩、ほんもの
の芸術。わけのわからぬ詩に會傷していた習に、こころよくし
みわたりました。こんなおもしろい詩集をつくる人と暮してい
るなんて、なんて幸せなこと。私も詩をかいてみたくなりまし
た。一私はよき市民で健全な家庭を営む、気の小さい妻であ
り母であり女です。危険予知能力はある方で、女のカンもすべ

れていると思います。このうい小市民はウリヤイオムなんかが危険なものなら近づきません。私を不幸にするものなら手紙など出しません。ほんとうの危険を止めようとしているから。ピラについて、もよんだ次やです

(東京 林 郁)

② 向井さんの詩は、日常用語を使って平易に、身構えや気取なしにかいています。ぼくはうかがい難いことばでいける世界をうたっています。獄中にあると、獄外のいろんな活動というのが具体的に判らない。それを示してくれたことも「いいなあ」という思いとなっています。向井さんが自分一人の世界にこもってうたうのではなく、ふうさん、おかもつちゃん、のぞみくん……とともにあることをうたう暖みなのだと思います。

(東京 大道寺将司)

③ へ三尺高い木の……とかへしろい背巾……は、勝久に死刑判決が出ていたので、特に身につまされました。……面白かったのはへ同行四人へへ赤い鳥奇函へ深夜定期便……。最近一カ月程の間に二回、受審室をこると無言……ということがありました。七年前の当時すういやがらせ電話がなかったのだから、今頃あるわけないと思いつつ良い気持ちしません。

(岐阜 大森和子)

④ 日頃、本など殆どよんだことのない、四男奴が、勤めから帰って、塾中してみているので、自今もなんが嬉しくなりました。たえるべき運動共通の問題点を、このうい詩形にまとめられたこ

とほ、やはり向井さんだなど、戦前のいわゆるプロレタリア詩の
ことをおもい出しながら、思いました。(東京 上野のぶ代)

②⑤ 向井さんとオッチャやんの暮しさがわかって面白かった。オナ
ジシメへ同行の旅とか、夜中の電話とか、ごくろうさまです。入
養山鳴動…記…こういうことが報道もされず行われているのかなと
ゾーンとしました。(二野里赤々)

②⑥ たまたま、向井さんから呼ばれたところにいたので、より鮮明
なものでして詩集をもらえられような気持ちがあります。そして重く
ずしりと私の肩にかかって、私のための詩集だと思えるのです。

…動きを同じくしてきましたのに、向井さんは詩をかくことにまっぴら
いっも自分を向いかえてしている。正が私は流れた。ほほしやなと。
11

…私の中のあいまいな部分をぞぐり出すかのようです。しんぼい
なあと思いつつ、ありがたいなあとという気持ちです。向井さんの詩
は…抒情詩…かもしれないけどそんな区別は、私にはどうでもい
い。正が向井さんの詩が、前未踏の詩作となつていていることは確
かです。このことを感想としてのべることできたらいいのだが
うまくかけない。②⑦(二信)十一月二日の…正和の、こちら側
が何もできなくて重荷してしまつような、いまの状況を破るため
には、いっつも動きつづけ、そこで去っていくしかない。よく向井
さんがいつていた、そのうちキつと肩発はダメになる、そのとき
私たちの入ゲモニーでやめさせねばという運動論…そのための運
動の持続…である

(袖奈三 芳村和男)

3



②7 形式、常識、思考の枠にとらわれない、それらへの反逆をいつたことが—それは結局、定型を拒否し、—と不定型にして—からから設定しなおすということに—一着して向いかえしがあつて、詩が創造であつて、情緒の独白じやないんだつてことがはっきりわかつてゐる人には、向井さんの声が聞こえるんじゃないかな。詩で他人を動かすんじゃないやなくて、自分が詩になつていくという、直^{ちか}かの触れ合い。…ここにはもともとその為にあつてきてゐるわけですから、出合いの実存がそこにあると思ひました。

②8 独善的書評へ「ラ」について

おかもつちやんが電話をかけてきて訴える。

「共同小窓のカギ・違てるのが聞かへんねん」

この電話を受けた詩集の作者は即座にこう答へてしまふ。

「針金がへアーペンで…」ああしてこうしてみたらどうかど、五分後、彼女は

「うまいこと聞いたわア」と伝えてみよし作者は

「ほら、みかつたね」とやうに感じる。

しかり、閉じられた鏡を開くのは、形のあつ鍵ばかりではないのである。

詩という共同小窓の扉を開くのは、作者は鍵をこらさずには、どつちやつて中に入るのか？

ソングで作者は、針金をハマーピンで鏡を刺さうとほしがない。な
せなら作者は、扉ごととりはずす。

かくて境界はななくなり、日常から詩へ、詩から日常へと存在の
身となった作者の詩は、詩をずるものとなる。

詩をじているならば、詩はかゝれぬものだろうか。

へ一日一頁幾何月行動員間〜という詩は、コスモスの詩原
稿が、「まだ一行も手をつけていない……」ところからはじまり、
二回詩内に生じ、ひきおこした状況が、詩内で区切られて提示さ
れていく。

24時に到着まで、日常がつみ重ねられ、ひきのべられてゆき、
末尾で、「ミミロラの折、まだ一かほどのこつてると、作者は
いいつと見つけたあと、扉のない通路を導つて、詩を言う。

「コスモスの原稿、まだ一行もかいていない」と。

末尾の行とこの行の間には、一行分空白で埋められている。扉
の形跡のように空白がある。

詩は、二回詩内にわたつてすでに述べた。だが、「まだ一行も
」かかれていないことを言う一行のひびきは、いつまでも聞こえ
る。ぼくは果して、コスモスの原稿を一語でもかけただろうか
？否、かけるだろうか？

へ三尺高い木の枝のく中の「宙吊りの、いつまでもゆれ、私
の文胸」は異く存在し、やがてソニン・サンジンの文胸となつて背
中に焼きつけられ、作者は叫ぶ。

「アイユー」

唱和する白い上衣をつけたデモの仲間。ソニン・サンジンの死刑、

時が流れ、ゼツケンから炊きつけられた思いを、思い出さなかつたことを作者は、

「ぼくの背中へ、とつくの昔にきみの名前を消して、まつしろになつていたのではないかつたか」と、責める。だが時は風をまいて逆撃し

「ぼくの昨日が「せい」にそのとき「ぼくの今日を見あげてきたのだ。」ということだともなつていく。

見られる関係は、見る関係へとりかえられてゆき、見落りを見つめ、時には

「逃げたらアカン・何ですかさうマ・」から尾行した。たらエエネン・「とこういうことになり、海跡ともなつてゆく。

この不定形の関係は、入深夜定期便へや入赤い鳥奇肉へ入怪談へ入夜景へと日常化される非日常としてあらわれ、入同行田へ入くではついに、権力がむきだしたされて、寒さにふるるとる姿をあほかれる。

不定型の関係は、しばしば逆転をともない、入落り込み捜査日鏡くの形をとつて示された。……

さてこれらの一切の作者の営為は、ただぼくの為になされてくるものであり、そのように了解してやるにつかえないくする。果してぼくは、それにとれ程にたえ得てきたかどうか、少し武者振いがする。(東京 飯田博文)

② 詩集であつて、自伝であつて、生活であつて、現代史といつてころ大いに魅力をおぼえます (大阪 清水正一)

③⑩ 技術的にも非常にむずかしい詩と運動の合体があり、事実としてのドラマがあり、ドラマを支えているのが秋山や入のいう抒情詩的なもので、人肉のころのなかへやさしく入つてきます。読ませるための條件を武藝として十二分に備えている詩傑です。羨なさい方ですが、幼児性からの鋭い眼、鋭い怒りに本當の言葉の世界をみます。…地理的にも泉大津がすぐ近くなのでリツ然としました。

(大阪 山内 清)

③⑪ 詩的活動日誌録といつたところですね。入一日のリンネへのコトバが印象にのこりました

(東京 黒川 先正)

③⑫ 市民運動への参加と、尾行に追いかけられる日常が浮き彫りにされていて、大へんアクチュアルな詩傑と思います。全体にしめつぽくなく、笑いの要素を含んでおり、これは自己啓蒙ができている証拠で、立派なことです。作中では入赤い鳥奇肉くが像作。へ張りどみ…日録へのユーモアを窺います。向鐘はオIII部にあるでしょう。ピラそのものの詩、詩そのもののピラを作りたいというところがあるたにはピラづくりは芸術ではないというたぬらいが、詩とマジテーシヨンとを区別しているからいがあるようです。その芸術至上主義を捨てるべきです。……いすれにしても…あなたのもつとも前衛的な領域での詩作の苦悶を知つて寫眞に鞭打たれるのもいざした

(東京 関根 弘)

53) ……まったく思わせぶりなところがありません。マジ詩みたいでマジ詩でなくて、プロ詩に似ててプロ詩でなくて、宿のかが入ってなくて。キツチリとした向井さんの、伝わってくるのは、ヒョウヒョウ。ヒョウ／＼の感じ。ふう子でなくてふう子さん。これは小さいようで大きな遠くに相違ありません。向井さんのくらじがわかる。そのとりまきつが見えてくる。…うむ、うむ、うむ、でも抒情。だから向井孝君を信じます。…こんな言葉をおらにめて、詩にしゃがって。ふうん。不勉強反省。

(東京 内田麟太郎)

54) 私曰、詩は余白にその想いがあるという偏見をもっています。向井さんの詩をよんで一つの詩が終ったとたん、プアーと白い余白が広がってきたり、あるいはガケツプ子に立たされているような感じがしました。

(大阪 岡本首子)

55) 日常の物語をよんでいると思って、ふと立ちどまり、ああ、この詩があると思いました。不意な感動です。

(横浜 千早歌一郎)

56) ヒラも一つの詩に過ぎないのではないか。それが生活とぎりはない緊縮をみせるとき、詩になっていくのではないか。一忘れつぽい入ぬも存在、ふつと存在になつてしまふ他へ、その虚しい中へ、かきつくろうに腐いものやそ、それが拭き消されることかあるおそろしさ。一入しろうい背中へ

(熊本 本田晴光)

③ 詩集の、そのユニークな産声は、いかにも個性的で、聴く者の心ころを掴んで離しませんでした。それは…「歌とは敗北を覚悟の上で、この世の史の事への抗言に他ならぬ」ことを信じる者の感動です。…私たちの詩は長くなければなりません。現実の傷口を見て素通りできぬ性格の者として。

一体、詩的とは何でしょう。あなたは日常身边のことを、意識の全ことを、剥ぎ取ったらう詩くになるかと向うています。それは記録であつても入抒情詩くにはならぬでしょう。だが入抒情詩くのみが詩であらうか？

詩が、志であつた時代—それは人間の感動を最もヤそう入歴史くであつたはずである。

喉目風景にあなたが焦点をみて、あなただけのオーヴァ・ラッパを通して、今まで見えなかつた現実の断面がはつきり露呈され、下時、それは人間の迫る感動であつて何でしょう。もしユヌモスに原則的詩作方法があるとするれば、この地奥から遠くはなれた道に「人民詩」「抵抗詩」は存在しないとたえます。

へしうい昔中への余韻と、へピラについてくの新しい出会いが感動を呼びました。ピラ一枚についての新しい現実の断面をつきつけられた一閃の光茫を思います。一欠長は印象を殺ぎます。先行者は、こかく垂れてくる者に説明し勝ちですが、こころすべきです。

(東京 申 有ん)



「『ビラをつくるのは、相手のおもいをほくのおもいに
きるべきだけである。自分のおもいでかくるのではない』
ここに相手のおもいをほくのおもいとするビラの本分がある
とすれば、自分ひとりのおもいをみつめる入詩との個有差が
あるだろう。

「ビラのゆくえは視えない」という嘆きが向井さんにもある。
すべての言論が秩序と支配体系の中に収容されてくしているこ
の社会にあつて、何十・何百枚の反腹方の一を田私ビラや反
自征伐、反産器のこまかいミニビラまで入れれば、おそろく億
に達するだろう。このビラを、民衆の中へ、相手のおもいとほく
のおもいの媒介として、細の目のように広げてきた向井さんに
して、さらに入表現へとおしひらいてゆくもの、それが無音
の要請として、仕舞と仕舞の合い前に訪れるのであろうか。そ
れが入抒情ならば、抒情の本質とは何だろう。

「ビラは、ことばとして解放され、プロパガンダとして語られ
相手のおもいと自分のおもいの共同のつながりが成り立つ基盤
として広げられてゆく。わたしは向井さんのビラを入詩くのみ
うに感じて読んできたのだが、抒情の追及は別におくとしても
それは、向井さんのビラが単なる政治的メッセージと異な
り、深く詩の本質にかかわるものを持つているからではないだ
ろうか。

「ビラにひろがる共同のおもい」が成り立つ基盤は、入詩く
おいては、何よりも自己の胸の解放へと向きをうつら、かくす

れてあるもののようにだ。

(宮城 荒井智子)

追加

… 11月24日

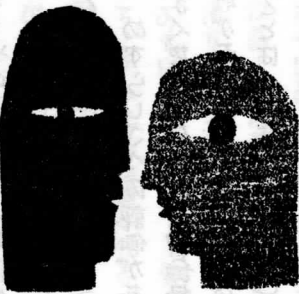
④〇 一口に言つて今回の詩集は劇だと思えます。そしてエロ
ムにおけるドラマ性を失ななりました。…内容は面白くて読み出
したら止められない、止まらないで、全篇一気に読み通しまし
た。…切迫した話ばかりなのに、どこかユーモアがあり、オチ
ヨクリがあつたり、これはもう向井さんの人柄がもたらされて
然しへしろい背中などは非常に緊張しています。へ怪談くな
ど、ミステリアスな想入を待つてあり、へ同行四人へは上巻末
の密室的ドラマで、人情の枚数までのやっています。へ張り込
み…口説くは構成の妙、「一日」も計算が行き届いた志出ば
です。へドラマについてくはまるで主体的読者の面をもつて
いると思えます。へ泰山…作敵記くなど偉のたさる劇そのもの
でもあり、ドフマツルヤです。へJ2・文飾要録くなど
演出を待つて出発するもののようにみえます。

(愛知 須藤伸一)

④1 ウリの活動についてはほとんど知識がありません。詩集を
読んで片りんをうかがったことになりませうか。…へ上巻
日の戦もどく相くはななあちこち…この国の「どうしようもない
平和」の類、自分もその類のうぶ毛の一本かもしれない…多分

そうなのだろうと写るいひ研なものを感じるけどもは何
か、これが平和の顔であるか認知も察知も出きかたい、この格
な時に生きて、私は私の魂と対決しながら必死に生きることの
外、他にこの罪を問うことは出来てないでいます。…

詩集の行向からあふれてくる、その人のやさしさ、哀しみ、そ
の愛のかたちに、しばしば過死の有様で、私の家に時々集まる
若者たちに、よんで肉かせました。みんな笑いこけながら、き
らりと目を光らせて聞いてくれました。…(大阪 鷺岡美術)



逆記的に
向井 三郎

▼ 手紙：ハガキをひろげて線をひき、その部分を抄出して音
き字しながら、当初に女んだときとちがう印象がいろいろ出て
くるのにおどろいた。ひとに頼んで作ってもらおうか、とも思
ったのだが、自分が書き直して、女かつた。

今も余韻のやうに心に残っていることはなげか、思ううかんだ
ー ぼんやりと出てきて余白の塵草代りにかいておく。

① 「面白」思わず吹き出した「ユーモアがある」といふ感
想がたぐやんきました。まわりは「こころあった」と喜んで、大ま

「之らいオモロかったわッ」。これは、とくに意図したものでなく、そういうことで好、実は望外の入神の賜物、分け前。
「でもオモロイ詩集」なんてあまり好いたことないでエ」と云いながら、悪い気はしない。

⑦ 「一氣によめた」「意味がわからなかった」「読みだしたら止まらぬ」「ー」というのは、南進して「くだけた言葉」「日常用語」「平身語」「ー」などに通じるものだろう。これは、まあ、一生懸命、意識的に造及したこと。大げつほにみえて今ミツ」と云われて「ソラソウヤロ」と内心……。これは又へビラへに不可欠。

⑧ 主として、2. に分類した感想は、詩の出来不出来についてという以上に、題材となつたことの内容、運動や、その特異さ、めずらしさへの評価があつたことだろう。(運動と関係)ある人だけでなく、日常無縁の人からも、それが運動の質(これが面白さとも通称してゐると思ふ)をも命めての評価であることは、やはりうれし(しかし、運動してゐるといふことゝそれきかくこと)で、詩が評価されるといふことには、甘えるわけにはいかない。

⑨ 運動のルネとしてはいれた。がそれ以上のメッセージ、マジテーションとして書いたつもりはない。が、もちろん読者の内部でそれがメッセージとしてマジテーションとして転化する事になれず、すぼらしいことだ。

⑩ この詩集の詩は、まずいわけ、詩のワケから飛び出してそこから求心的に詩を回収して、ぼくの詩を創る試みだが、それを⑪で飯田さんにぼく以上の表現で受とめてもらつたと思ふ。